

可燃物処理施設の法面地すべりについて

【経過】

- ・令和2年4月上旬、可燃物処理施設建設現場の東側の法面上部に亀裂が入り、4月下旬には上部に段差、下部に大規模な崩落土盛りを形成している。
- ・その後、JFEエンジニアリングの協力のもと10月まで経過観察を行ったが下部の崩落土盛り部分に若干の下方向への変化が見られたものの、上部の段差に大きな変化はなく小康状態となっている。

【地すべり対策工法の検討】

◎JFEエンジニアリングにおいて対策工法の検討を行った。

- ・検討の結果、将来の再滑動や敷地の制限、美観、コスト、工程等から判断し、「押え盛土工」が最も適していると判断された。

※工事施工費…約100,000千円

【内部での検討結果】

- ・次の理由により、上記復旧工法での施工は見送ることとし、下記の【施工方法（案）】を実施したいと考えています。
- 上記【経過】に記述のとおり、現在は小康状態となっており、当面、地すべりが大きく変化することが考えにくい。
- 仮に上記の工法で施工を行ったとしても、地すべりが起きている山自体が崩れやすい土質（凝灰角礫岩風化土）であり、再び地すべりが起きる可能性は高くはないが否定もできない。

【施工方法（案）】

- ・現状の地すべりが今後、敷地内に崩れ出ないように法面下部に1トン土のうを並べ、泥状土砂の場内への流出を防止する。
- ・施工費用…約4,000千円

【R2. 12 月中旬】



施工方法（案）について

【施工範囲】



【正面】



【側面】



【1トン土のう写真】

大きさ：縦 1,100mm × 直径 1,100mm

大型土のう袋



内袋付



【使用例】長期工事の土壘 災害用備蓄など

